

「歯科技工士から始まるコミュニケーションとその価値」

江川朋宏

近年、歯科医師と歯科衛生士・歯科技工士がコミュニケーションを取った方が良いと講演や雑誌でよく見かけるようになりましたが、そのほとんどが高度な技術と豊富な知識が必要な難しい症例の場合が多くあります。

一方、私の日々の臨床では、そのような症例はほとんどありませんが、10年院内ラボに勤めていた経験を活かし、コミュニケーションを通して、日々の臨床レベルの向上を目指してきました。今回はその取り組みと義歯製作においてコミュニケーションを交えて行った症例も紹介したいと思います。